

石坂桑亀 石井宗謙 児玉順蔵



シーボルト
(長崎歴史文化博物館 蔵)

日蘭協会連続シンポジウム 岡山蘭学の群像Ⅷ

「シーボルトになろうとした男たち」

日時 平成29年8月25日(金)午後2時～4時30分(予定)

場所 山陽新聞社さん太ホール (Tel 086-803-8222)

基調講演



原田 博二

(長崎歴史文化博物館研究所元所長)

講演



下山 宏昭

(文化ジャーナリスト)



榎野 博史

(岡山大学学長)

入場無料

鳴滝塾舎之図 (長崎大学附属図書館経済学部分館 蔵)

主催 ● 公益財団法人 山陽放送学術文化財団 共催 ● 岡山日蘭協会

後援 ● 岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会、津山市、津山市教育委員会、香川県、香川県教育委員会、公益財団法人岡山県郷土文化財団、山陽新聞社



瀉血手術図 (長崎歴史文化博物館 蔵)

1823年に来日したシーボルトは翌年、長崎郊外に患者の治療と医学教育、そして本来の目的である日本研究の拠点として鳴滝塾を開設した。全国から集まった医師に交じって岡山からも、石坂桑亀(1788~1851)、石井宗謙(1796~1861)、児玉順蔵(1805~1861)の3人がシーボルトの門をたたいた。

3人は蘭学と西洋の最新医学を学び、また宗謙は、日本の学問書をオランダ語に翻訳してシーボルトの日本研究を支えた。

帰郷後はそれぞれ数奇な運命を辿ったものの、彼らは西洋医学の地域移植の担い手として医療の質的・量的向上をもたらし、多くの門人を育て、それらは岡山大学医学部の前身・岡山藩医学館や岡山県病院の開設へと発展していった。

シンポジウムでは3人の研究者を招き、あまり知られていなかった鳴滝塾での教育方法や長崎遊学の実態、岡山の医師たちの動静と地域医療に果たした役割などを考える。



紙本墨書シーボルト免許状 (シーボルト記念館 蔵)



シーボルトが使った眼球模型 (シーボルト記念館 蔵)

出演者プロフィール

原田 博二 (はらだ ひろし)

長崎市生まれ。博士(学術)。筑波大学大学院情報メディア研究科博士後期課程修了。現在、長崎史談会会長のほか、長崎県文化財保護審議会委員、長崎純心大学非常勤講師(古文書学)などを務める。主な著書に『唐寺と唐僧』(『長崎・東西文化交渉史の舞台』所収)、『石崎融思筆唐館図蘭館図絵巻』、岩波ジュニア新書『長崎』など多数。

下山 宏昭 (しもやま ひろあき)

岡山県勝央町生まれ。主にテレビドキュメンタリー、ドキュメンタリードラマなどを制作。映像コンクールでの受賞多数。著書に『叛華〜古代吉備が滅んだ日〜』、共著に『岡山県なぞ解き散歩』など。映像作品に『絶滅!瀬戸内カブトガニに何が起こったか』『ドキュメンタリードラマ 涙で絵の具を・愛のたび人・夢二』など多数。

榎野 博史 (まきの ひろふみ)

岡山市生まれ。内科医。生活習慣病と、高度な診療技術が必要とする腎疾患、リウマチ・膠原病、内分泌疾患の成因の解明と新しい治療法の開発に力を注いできた。岡山大学医学部第三内科(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学)教授。付属病院長。日本腎臓学会理事長などを歴任。この4月岡山大学学長に就任した。著書に『標準腎臓病学』、『わかる糖尿病腎症-診断から透析治療まで』、『オランダ物語』など多数。

ご希望の方には「優待席」をご用意します。
この用紙のままFaxでお申し込みください。
ハガキ、e-mailでも受け付けます。

7月31日(月)締切

お名前
(企業名)

〒
ご住所

申込人数

※ 2名までとさせていただきます。

ご連絡先
(電話など)

fax 086-225-5046

◆ e-mail nichiran@rsk.co.jp

◆ ハガキ宛先 〒700-8580 山陽放送内 (公財) 山陽放送学術文化財団

◆ 複数応募不可

希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

「優待席」のご案内はハガキでお知らせします。

お問い合わせは 公益財団法人 山陽放送学術文化財団【tel 086-225-5531】

岡山蘭学の群像 第9回予定

特別編 江戸のエレキテル・マン

ひらがげんない

「平賀源内」

平成29年12月4日(月)
山陽新聞社さん太ホール

「岡山蘭学の群像1・2」

絶賛発売中!

先人のあくなき探究心と
歴史のダイナミズムがここに!

定価:1400円(本体)+(税)

お求めは、お近くの書店で!



A5判